

# 夢の架け橋 (文月)

第4号

先月で開店五周年を迎え、六年目に入りました。永く続けることを目標にしていましたので、まだまだ通過点に過ぎません。この五年間を振り返ると、実にたくさんの人に出会い貴重な経験をさせていただきました。毎日が感謝の気持ちでいっぱいです。

看護師をやめて何をしようかと考えていた時に、喫茶店を思いつき、そこから実現に向け日々を過ごしていききました。そんな中で、いいタイミングで出会いがあり、一歩ずつ前進していききました。その間に、いい屋号の「予約席」はさだまさしさんのコンサートで妹の佐田玲子さんが歌った歌「予約席」がきっかけでした。私が気に入った歌詞の一部をご紹介します。

## 『夢』

もしかしたらこんな私でさえ  
誰かが求めている  
いつか誰かの支えになれる  
場所があると思う

いつかきつと こんな私でさえ  
誰かが待っている  
私の為の予約席がある  
それを信じてる

私は、こうして「喫茶店をやりたい」という夢を実現しました。「いつかは〇〇できる」という目標を持つことが大事だと思えます。さて皆さんの夢は何ですか？

少し余談ですが、この会報の「夢の架け橋」は予約席という場所が、人と人、心と心をつなぐ場所になれたらいいなという思いからつけました。今後は皆さんからの情報やちよつといい話なども紹介していきたいと思えます。

そして、もうひとつ考えていることがあって、こちらのタイトルは「一期一会」。少し前から構想は練っていたのですが、これもまたグッドタイミングでタイトル字に出会いました。先月展示をご覧になった方もみえると思いますが、恵那の書家MARIOさんの作品がまさにピッタリ。その書は予約席店内にお嫁入りしてきました。このような出会いがとても不思議で、実におもしろい。今後また何かに出会うことを思うとワクワクしてきます。

時間は止まることなく動いていて、どんどん今が過去になっていきます。後戻りはできません。今日がいい一日だと思えるような生き方をしたいなと思えます。

我が家の小さなカフェ  
6/27 (日) ~ 7/10 (土)



家具工房ウッズスケッチ



写真展 (ハイビスカス)  
7/11 (日) ~ 7/25 (日)

平手 勸逸

浜田 安生



ガラス展  
7/27 (火) ~ 8/7 (土)

## 7月展示予定

### ひとり言

「夢」を叶える上で欠かせないのはやはり人とのつながり、つまり出会いでしょうか。日々、色々な出会いが繰り返されますが、どんな出会いも無駄なものはないと思いで一期一会を大切にしていきたいものです。(ゆ)

日	月	火	水	木	金	土
27	28	29	30	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

赤字の日がお休みにになります

### 木洩れ日コンサート

これまで、シークレットライブというかたちでアルバの演奏等を行って来ましたが、シークレットライブは7月で一旦終了したいと思います。

代わって9月から「木洩れ日コンサート」として、月に1〜2回午後1時から2時までミニライブを行ってこうと思います。

今まで通りアルパの奥村陽子さんはもちろんのこと、新しい演奏者の方も出演してもらえたらと思っております。

つきまして、演奏される方の募集も行っていこうと思えますので、我こそはと言う方も、もしくはお知り合いでも結構です。情報をお待ちしております。

《お知らせ》  
毎月「夢の架け橋」に目を通して頂きありがとうございます。時折「楽しみにして頂きます」との声を頂き、大変嬉しく思うのと同時に、これからも頑張ろうと言う意欲が湧いてきます。

創刊以来「夢の架け橋」は「予約席」からお客様へという形で内容を進めてきましたが、今後は皆様の声も反映できたらと思っております。

皆様、常日頃思っていることや、伝えたいことなどは是非お寄せ下さい。

この「夢の架け橋」を通して、沢山の方々に紹介できたらと思っております。

尚、お寄せ頂くにあたり、実名・ペンネーム・イニシャルいずれでも結構です。

## 先日の展示に触れて

先日ギャラリーで展示して頂いた

「MARIKO calligraphy style collection」を鑑賞して、日本語、特に「ひらがな」ってなんて美しいんだろうと、あらためて発見させられました。

技を極められたMARIKOさんが渾身の思いで記された文字なので、美しいのはあたりまえなんです。記された文字と共に言葉としての日本語の美しさも改めて思い知らされ、常日頃何気なく、読み書きしたり話したりしている日本語なのに非常に新鮮な思いでした。

そんな、美しい日本語に触れて思うのは、今私たちの周りにある日本語はなんだろうと…

日本語って、（私の勝手な思い込みかもしれませんが）言いまわしとかが非常に繊細で人の心を表すのに絶妙な表現ができる唯一の言語じゃないかと思うのです。それに加え、この絶妙な表現をひらがなで「縦書きに」記したときのなんともいえない美しさは溜め息が出るばかりでした。（これでラブレターなんぞ書かれたら、コロッといっちゃうんじゃないかな！）でも、先にも書いたように今巷で使われている日本語は粋じゃないような気がします。確かに、「言葉は時代と共に変化をするもの」と言われますが、昔から有るいいものを捨て去ってまで流行りに迎合

するのは如何と思うのですが、どうでしょうか？

それにしても、展示をしてくださったMARIKOさん、本当にありがとうございました。加えて短い時間でしたが、ひらがなの成り立ちなどのお話もして頂き、参考になりました。このひらがなの成り立ちの話など、大変興味深い内容なので、多くの方に聞いてもらえたらと、話を聴きながらその場で思っただけです、何とかそんな機会を創りたいものです…。

最後に、展示期間中にMARIKOさんにいただいた揮毫を紹介いたします。

（根なし草）

